

令和 5 年度全国学力・学習状況調査より

～ 児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣等に関する 結果の分析と改善に向けた今後の取組について（小学校）～

福島市教育委員会

1. はじめに

福島市教育委員会では、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を市の教育施策に係る検証と改善に役立てるとともに、その結果と改善策について広く市民の皆様へお伝えし、保護者や地域の方々のご理解とご協力を得ながら、本市児童生徒の学力の一層の向上を図っていきたいと考えております。そこで、本市全体の教科の平均正答率とともに、児童生徒の学力の状況、学習習慣・生活習慣に関する課題や改善に向けた今後の取組をまとめましたので、ご覧いただければ幸いです。

なお、本市では序列化や過度の競争につながるおそれがあることから、学校名を明らかにした公表は行っておりません。

2. 調査の概要

- 調査日時 令和5年4月18日（火）
- 調査対象
 - ・市立小学校43校の第6学年の全児童
 - ・市立中学校19校の第3学年の全生徒
- 調査内容
 - ・小学6年 国語、算数
 - ・中学3年 国語、数学、英語
 - ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

3. 教科に関する調査の結果（平均正答率）

(1) 小学6年

	福島市	福島県	全国（公立）
国 語	69%	67%	67.2%
算 数	63%	61%	62.5%

(2) 中学3年

	福島市	福島県	全国（公立）
国 語	70%	69%	69.8%
数 学	47%	46%	51.0%
英 語	42%	41%	45.6%
（話すこと）	9%	—	12.4%

※今年度は生徒用タブレット端末を活用し、英語「話すこと」調査が行われました。

4. 全国の結果からわかる本市の特徴（○成果となる主な内容 ▲課題となる主な内容）

(1) 小学6年

国 語	算 数
○ 学年別配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うこと。 ○ 目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較したり、文章を読んで理解したことを基にしたりして、自分の考えをまとめること。 ▲ 図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ▲ 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うこと。	○ 数量の関係に着目して問題場面を解釈し、数学的に表現・処理したり、計算に関して成り立つ性質を基に計算の仕方を考えたりすること。 ○ 日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、表やグラフからデータの特徴や傾向を捉えること。 ▲ 日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる二つの数量の関係について考察すること。 ▲ 基本的な図形の概念や直線の位置関係について理解し、図形を構成する要素などに着目して図形の性質や図形の計量について考察すること。

(2) 中学3年

国 語	数 学
○ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読んだり、古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えたりすること。 ○ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。 ▲ 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。 ▲ 文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること。	○ 不確定な事象について、情報を分類したり整理したりすること。 ○ 基本的な平面図形の性質が成り立つことを証明すること。 ▲ 自然数の意味を理解すること。 ▲ 反比例の意味を理解し、事象の特徴を的確に捉えること。
英 語	英 語（話すこと）
○ ある状況や場面における英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。 ○ 事実や考えが書かれている英文を読んで、事実と考えを伝える言語の働きを理解すること。 ▲ 事実や自分の考えを整理して、まとまりのある文章を書くこと。 ▲ 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を書くこと。	○ 日付などの基本的な語彙について、英語で話すこと。 ○ 相手からの質問に対して、おおむね正確な英語で答えること。 ▲ やり取りの場面において、適切な表現を用いて英語で質問をすること。 ▲ 単語のみでなく、まとまりのある英語で話すこと。

福島市の子どもの学力を一層伸ばすために

小学6年国語

育っている力

- ① 目的や意図に応じて話の内容を理解し、話し手の考えと比べながら自分の考えをまとめる力が育っています。
- ② 文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えをまとめる力が育っています。
- ③ 学習した漢字を送り仮名等にも気を付けながら、文や文章の中で正しく使う力が育っています。

育てたい力と手立て

- ① 図表やグラフ等を使って、自分の考えが伝わるような書き表し方を工夫する力

→ 図表やグラフ等と文章を関連付けながら内容を理解できるようにモデル文を提示するなどして丁寧に学習を進めるとともに、図表やグラフを用いて書いたり、発表したりする活動を意図的に設定し、相手にわかりやすく伝えるよさを実感できるようにしていきます。

- ② 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる関係の表し方を理解し、使える力

→ 学習場面に限らず、児童が日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみをもとにするのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討しながら自分の考えをまとめる学習を大切にしていきます。



小学6年算数

育っている力

- ① 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫する力が育っています。
- ② データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して、見いだしたことを表現する力が育っています。

育てたい力と手立て

① 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する力

→ 伴って変わる二つの数量の関係について、二つの数量の関係を表にまとめたり、表から規則性を読み取ったりするとともに、見いだした規則がいつでも成り立っているかについて説明する学習を大切にしていきます。

② 図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、簡潔かつ的確に表現する力

→ 基本的な平面図形について、面積を求めるためには、どの部分の辺の長さが必要かを考えたり、実際に必要な辺の長さを測定して面積を求めたりする学習を大切にしていきます。

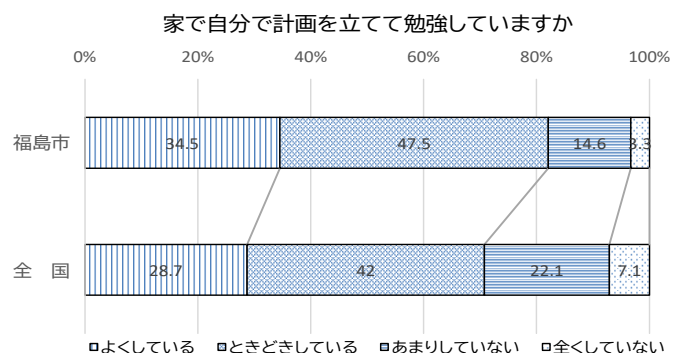
～小学校児童質問紙調査の結果から～

本市の子どもたちのよい点

○ 「家で自分で計画を立てて勉強する」

『家で自分で計画を立てて勉強していますか』に対し、「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童の合計の割合は82.0%であり、全国平均を11.3ポイント上回っています。

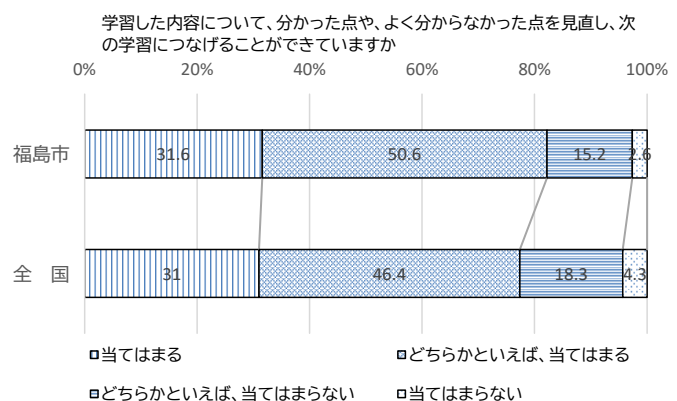
今後も「家庭学習のスタンダード（福島市版）」等の活用により、自分でよく考えて家庭学習の内容を吟味するなど自らの学びをマネジメントする力の育成を図っていきます。



○ 「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができる」

『学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるか』に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の合計の割合は82.2%であり、全国平均を4.8ポイント上回っています。

今後も子どもたち一人一人のよさを見取り称賛しながら、前時までの学習内容や学習状況を生かした学びがいのある授業づくりや授業内容と関連した家庭学習の在り方について充実を図っていきます。



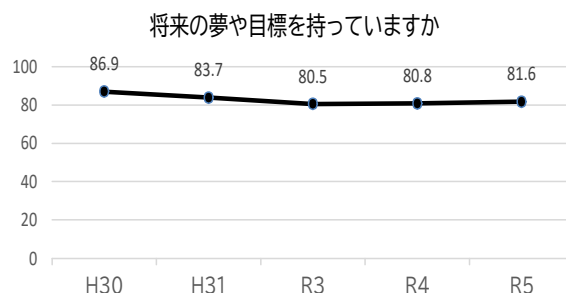
本市の子どもたちの課題

○ 「将来の夢や目標を持っている」

『将来の夢や目標をもっていますか』に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の合計の割合は81.6%であり、全国平均を0.1ポイント上回っています。

しかし、過去5年間の推移を見ると、最も高かった平成30年度と比較して5.3ポイント下がっています。

本市の子どもたち一人一人が将来へ向けた夢や目標を持ち、自己実現に向けて力強く歩んでいくことができるよう、各教科の授業や学校行事の充実を図るとともに、地域の人・もの・ことを積極的に活用した豊かな体験活動やキャリア教育の充実を図っていきます。



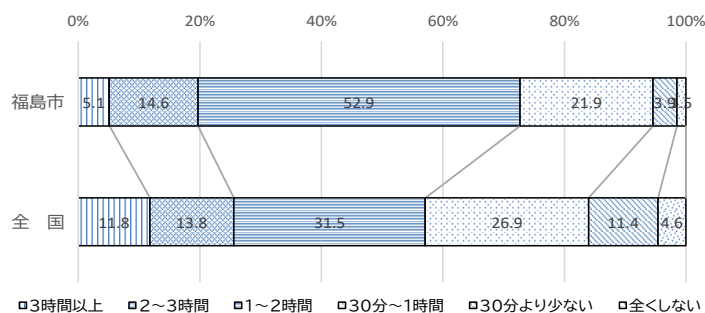
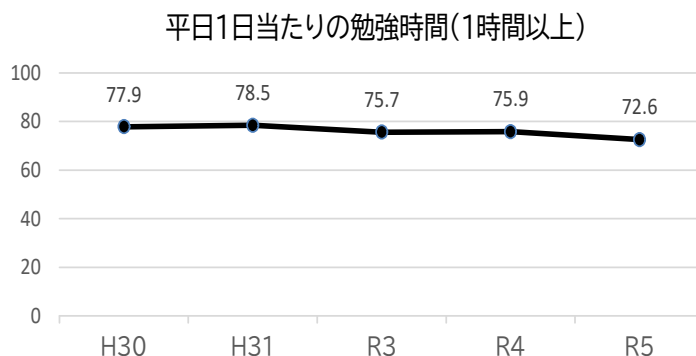
本市の子どもたちの家庭での学習時間

○ 「学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」

平日1時間以上、家で勉強している児童の合計の割合は72.6%であり、全国平均を15.5ポイント上回っています。

しかしながら、過去5年間で見た場合、最も数値の高かった平成31年度と比較して5.9ポイント低くなっています。「学校での学習 → 家庭での復習・予習 → 学校での学習」というサイクルを確立することで、学習内容が確実に定着し、学力の向上が期待できます。

今後も、小学校での取組だけではなく、小学校と中学校の連携、学校と保護者との連携により、家庭学習の習慣の定着と充実を図っていきます。



福島市教育委員会の学力向上への取組

○ 日々の授業の充実に向けて

- ・ ICT機器を積極的に活用し、各教科等の特質に応じて学習活動の充実を図るために、ICT指導員・支援員を効果的に活用し、児童の学習活動を支援します。
- ・ 年間を通して各種教員研修を行うとともに、学校訪問・授業研究会を通して、個々の教員の指導力の向上を図り、質の高い授業の実現を目指します。
- ・ 全ての教科を対象に指導主事を派遣し、教員の授業力向上に努めます。
- ・ 各中学校区の管理職や学力向上担当者と共に、共通の課題や学力向上策について協議し、国語や算数をはじめとして、各教科の学力向上を図ります。
- ・ 基礎的読解力（リーディングスキル）を高めるために、小・中学校と協力して実践研究を行い、効果的な指導法等について広く発信していきます。
- ・ ALT（外国語指導助手）やEAA（外国語活動支援員）を積極的に活用し、外国語活動（3、4年生）や外国語科（5、6年生）の授業の充実を図り、英語のリズムや音声に親んだり、コミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるような機会を設け、英語教育における中学校との円滑な接続が図れるようにします。

○ 家庭学習の充実に向けて

本市の児童は「家で自分で計画を立てて学習している」と回答する割合が全国平均を上回っており、主体的に学習に取り組む態度が育ってきていると考えられます。児童がさらに意欲的に粘り強く家庭学習に取り組むために、質的な向上を図っていきます。

そのために本市では、「家庭学習のスタンダード(福島市版)」を作成し、各校での活用を奨励しています。今後も「学校での学習」→「家庭での復習・予習」→「学校での学習」というサイクルを確立することで学習内容の確実な定着を図るとともに、自らの学びをマネジメントする力の育成に努めます。また、家庭学習におけるタブレット端末の活用についても、より効果的になるよう工夫改善を図るとともに、効果等を保護者の皆様に周知していきます。

保護者の皆様へ

学力向上は学校に課せられた最大の責務であり、今回の全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった本市の課題の解決に向け、福島市教育委員会、学校が一体となって、今後も授業改善に向けた取組を推進してまいります。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果からも、本市の児童生徒が家庭において主体的に学習に取り組んでいる様子がうかがわれ、保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

お子さんの学力向上には、学校と家庭の連携が欠かせません。今後におきましても、家庭でのお子さんの学習習慣の確立に向け、以下の点について引き続きご協力をお願いいたします。

- 十分な睡眠時間の確保、「早寝、早起き、朝ご飯」、テレビやゲーム、スマートフォンの利用時間や利用方法等についての話し合い（ルール決定）など、望ましい生活習慣の確立が大切です。
- お子さんが「決まった時刻に、決まった場所で」落ち着いて学習に取り組むことができる環境を整えることが大切です。
- お子さんの話に耳を傾け、様々な話題で会話する場面を積極的に設けてください。相手の話を最後まで聞き、相手の考えを受け止めて、自分の考えを伝えようとする意欲につながります。
- お子さんが主体的に考えたり、新しい考えを生み出したりするには、自分自身で決定する（自己決定）機会をつくるのが大切です。
- お子さんの頑張りを大いに褒めてあげてください。ご家族からの温かい言葉や励ましは、子どもたちが学習に取り組む意欲の向上に大きく影響します。